

普及だより

海草振興局農林水産振興部
農業水産振興課

〒640-8585
和歌山市小松原通1丁目1番地（県庁第2南別館）
TEL：073-441-3378 FAX：073-441-3476



左上：匠の技伝道師による研修
左下：新規就農者研修機械コース

右上：いちごの研修会
右下：いちごの現地指導

皆様におかれましては、協同農業普及事業の推進に御理解と御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

昨年は、日本農政の憲法ともいえる「食料・農業・農村基本法」が5月に四半世紀振りに改正され、日本の農業を取り巻く情勢変化に対応した国の基本理念が見直されました。

一方、和歌山県では、人口減少や地球温暖化など社会の大きな変化を踏まえ、2040年を展望した新たな「総合計画」の策定に向けて検討中であり、農業分野においては「農業の持続的発展」や「収益性の高い農業」を目指した実施計画を協議しているところです。

農業水産振興課では、こうしたビジョンを念頭に置き、時々々の地域課題を対象に3カ年の普及指導計画を定め、計画的かつ効率的に普及活動を実施しています。令和6年度からは新たな重点課題として近年、新規の栽培者が増えている「いちご」を取り上げ「若手生産者を中心としたいちご産地の再興」に取り組んでいるほか、担い手の育成や生産技術対策につきましても、引続き支援活動を進めています。

今後も農業者の意見をお聞きしながら、関係機関の皆様とも連携して地域農業の課題解決に向けて職員一同、鋭意取り組んでまいりますのでご協力よろしくお願い申し上げます。

普及指導計画の取組経過

【重点】若手生産者を中心としたいちご産地の再興

今年度から新しく3か年計画で取り組むプロジェクト活動をご紹介します。近年海草振興局管内では和歌山市を中心にいちごの新規参入による栽培者が増加し、産地の担い手が若返っています。いちごは、育苗から収穫まで多くの管理作業があり、栽培が難しい品目であるため、若手生産者の技術力向上を図り安定した収量確保を目指し支援していきます。具体的には①重要病害の防除対策、②収量確保対策、③持続的な農業の推進に取り組んでいきます。

また、新規参入者は、ハウスの建設など初期投資が大きいことや技術習得が難しいなど就農のハードルが高いことから、市町単位での研修受け入れおよび就農後支援が行えるように、新規就農者の受入体制の確立（受入協議会の設立）を支援します。

今年度は①重要病害の防除対策として炭そ病対策資料を作成・配布、炭そ病検定の実施、秋ランナー研修会を開催しました。また、②収量確保対策としては、細やかな花芽検鏡の実施、CO₂の効率的な活用についての研修会の開催、ハウス内のCO₂濃度モニタリングを実施しました。③持続的な農業の推進については、天敵導入実証ほを設置しデータをとるとともに、同ほ場で現地検討会を開催しました。

また、受入協議会の設立に向けて会議やサポートを行い、和歌山市で新規就農者受入協議会が設立され新規参入者の受入体制ができました。今後も引き続き取り組み、いちご産地を目指して支援していきます。



【一般】日本農業遺産みかん・びわ産地の振興

日本農業遺産に「下津蔵出しみかんシステム」として登録された、下津みかん、びわの産地でも、農業者の高齢化や後継者不足で産地の維持が困難となっています。その中で様々な課題に対応すべく継続して活動に取り組んでいます。

みかんの新品種「植美」「あおさん」に係る現地試験や、びわの新害虫ビワキジラミの防除試験などの技術的な活動とともに、後継者の確保と育成も併せて実施しており、海南市役所、JAながみねの協力のもと新規就農者確保を目的とした組織が立ち上がりました。後継者不足が顕著になる中、外部からの就農希望者の育成も重要になってきます。今後も「人」を重点に、産地の維持、発展に向け取り組んでいきます。



【一般】地域で守る農業を目指して

農業従事者が減少する中、産地の担い手確保と活性化を図ることが重要な課題となっています。そこで、新規就農者を増加させ、定着して農業ができる体制を整えることを目的に、普及活動を実施しています。

今年度、担い手の確保を目的とした活動として、①令和7年1月27日に和歌山市新規就農者受入協議会を設立、②20名の新規就農者に対する技術指導を実施しました。

育成を目的とした活動では、①関係機関の新規就農者サポートチームでの戸別訪問を11名に実施、②農業機械研修会や農薬の適正使用研修会など計7回の研修会の開催、③農村青年交流会を行いました。

今後も引き続き新規就農者の支援を行っていきます。



和海地方農業士会総会（農業士会）

和海地方では令和6年4月23日に和海地方農業士会総会および研修会が開催されました。

総会では活動報告、会計報告、新年度の活動計画などの議案が可決され新旧役員の見継ぎが行われました。

総会後は、「地球温暖化に対応した農業について」と題して和歌山地方気象台の講師から講演が行われました。

令和5年に新型コロナウイルス感染症が5類に移行して以来、初めての総会で、飲食を伴う情報交換会も行われ、コロナ対応の閉塞感から解放されたひとときでした。



食育活動（生活研究グループ）

和海地方生活研究グループ連絡協議会では、女性起業活動をすすめる、地産地消や食育の推進を目指して活動しています。

今年度は、リーダー研修会として休暇村紀州加太にて義本英也総支配人から地産地消や休暇村での取組について話を伺い、その後義本氏を交えて郷土料理や商品のアピール方法等について意見交換を行いました。食の交流会では一般参加者も募り、和歌山県栄養士会会長 川村雅夫氏から「食育とはなにか、その重要性と栄養士会での取り組み」と題しての講演と、各市町の生研グループからだいこんを使った料理レシピの紹介を行いました。

活動を通じて講演等で知識を深め、改めて地産地消や食育の大切さを再認識してもらえました。振興局として、今後も地域の活性化につながるような地産地消や食育の取組を支援していきます。



視察研修（青年農業経営者協議会）

和海地方青年農業経営者協議会では種苗会社の育種の実情を学び農業経営に活かすため、奈良県橿原市のナント種苗株式会社飛鳥育種農場で県外研修を行いました。

各品目のほ場で育種担当者から生産性、品質、耐病虫性等の育種目標についての説明を受けました。一方、参加者からは自身の栽培体験を語ると共に、育種への意見や要望を伝えました。



プロジェクト活動（4Hクラブ連絡協議会）

和海地方4Hクラブ連絡協議会では、「プロジェクト活動」として経営や技術の課題解決に向けた取り組みを行っています。令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症により飲食業界が大打撃を受けたことをきっかけとして、「個人の販売力強化」をテーマに、ブランド力の向上、販路拡大と、それによるリスク分散に取り組んできました。これまで、自身の経営分析から始め、ブランド力の向上、ネット販売の開始、加工品開発の活動を行っています。

令和6年度は、開発した加工品をもって、東京の大型展示会への出展に挑戦しました。多くのバイヤーが4Hクラブのブースを訪れ、産地のPRを行うことができました。中でも、下津の特産である蔵出しみかんが首都圏では珍しいと注目を集めることができました。



受賞おめでとうございます

農林水産業賞



岡室 孝明 氏



小栗 佳充 氏



(右) 受賞者：松本 弥 氏
(左) 推薦者：農業士会 藪会長

岡室孝明氏と小栗佳充氏が和歌山県農林水産業賞を、松本弥氏が和歌山市農林水産業賞をそれぞれ受賞されました。

先進的な取り組みやリーダーシップ、関係機関等への協力、後継者育成への貢献などが認められたもので、今後も益々の活躍が期待されます。

和歌山県食育推進表彰



(株) フーズファイル

株式会社フーズファイル様は、食育に関する取組みとして、「わかやま給食グランプリ」の開催、保育園等への出前授業、県内学校給食への県産食材の納入等を行っています。これらの取組みが評価され、2月4日に開催された和歌山県食育推進表彰式にて県食育推進表彰を受賞しました。

和歌山県青年農業者会議奨励賞



森本 和真 氏

和歌山県4Hクラブ連絡協議会は、令和2年度から「個人販売力の強化」をテーマに、活動を行ってきました。

1月28日に開催された県青年農業者会議において、クラブを代表して海南市の森本和真さんが、これまでの活動について発表を行ったところ、5年間の継続的なクラブでの活動が評価され、奨励賞を受賞しました。

令和7年度人事異動による転出入についてのお知らせ

転 出			転 入		
旧職名	氏名	新職名	旧職名	氏名	新職名
部長	佐野 豊	県林業試験場長	研究推進課長	上山 茂文	部長
副部長兼課長	黒沼 稔之	県農林大学校就農支援センター 所長	那賀振興局農林水産振興部 主任	上野山 浩司	課長
主任	萩平 淳也	農業生産局鳥獣害対策課被害対策班長	農業生産局経営支援課 主任	奥野 憲治	主任
主査	千賀 泰斗	有田振興局農林水産振興部 主査	農林水産政策局農林水産振興課 主任	増田 琢磨	主任
主査	佐々岡 詠子	県農林大学校 助教	県農林大学校就農支援センター 所長	鳥居 洋木	副主任
技師	乾 隆志	生活局生活衛生課 技師	県水産試験場 研究員	奥山 修杜	副主査



お知らせ

農業水産振興課ではホームページやInstagramでも農業に関する情報を提供していますのでぜひご覧ください。



農業水産振興部
ホームページ



農業水産振興部
Instagram